

新たな相模原市教育振興計画の検討状況 【資料】

※ 第3回相模原市教育振興計画策定委員会までの議論を基に作成

目次

新たな計画の策定について・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
1 計画策定の背景・目的 (P. 2)	
2 計画期間及び計画の構成 (P. 2)	
教育を取り巻く現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
1 社会の変化 (P. 3)	
(1) 人口減少・高齢化の進展 (P. 3)	
(2) 子どもの貧困など社会経済的な課題 (P. 4)	
2 教育に関する今日的な課題 (P. 5)	
(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得 (P. 5)	
(2) 自己肯定感等の育成 (P. 6)	
(3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実 (P. 8)	
(4) 教員の長時間勤務の解消 (P. 10)	
(5) 生涯学習のきっかけづくり (P. 10)	
新たな教育振興計画の基本理念や施策体系検討の考え方・・・・・・・・	P. 11

新たな計画の策定について

1 計画策定の背景・目的

- 平成 21 年度の「相模原市教育振興計画」の策定以後、教育課題の多様化や学習指導要領の改訂等、児童生徒を取り巻く環境や社会状況が変化してきています。
- このような変化に的確に対応していくためには、子どもたちが、夢や希望を持って未来を切り拓く力を育成するとともに、市民が生涯にわたり学び、活躍できる環境を整えることが重要であり、温かさと先進性のある取組を進めていくことが必要です。
- また、昨年 6 月に 2030 年以降の社会の変化を見据えた教育政策の在り方を示す「第 3 期教育振興基本計画」が国の計画として策定されました。
- こうしたことから、新時代の到来を見据えた次世代の教育を実現するため、平成 32 年度から開始する新たな「相模原市教育振興計画」を策定し、効果的で計画的な施策や事業展開を図っていきます。

2 計画期間及び計画の構成

(1) 計画期間

平成 32 年度から平成 39 年度までの 8 年間

(2) 計画の構成

- 基本理念
計画の基本的な考え方及び本市の教育の目指す姿を定めるもの
- 基本目標
基本理念を実現するための基本的な目標を定めるもの
- 基本方針
基本目標を達成するための分野別の具体的な施策の方向性を定めるもの

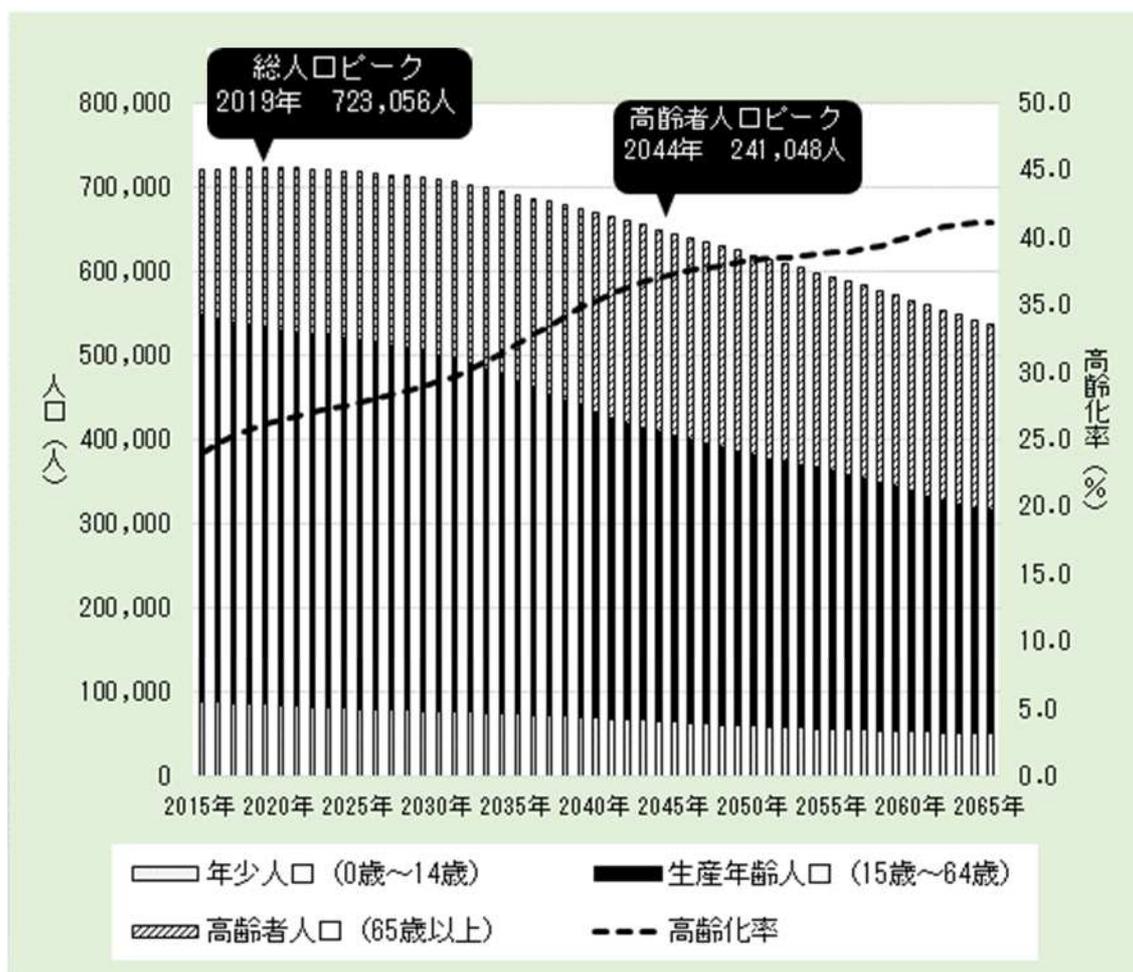
教育を取り巻く現状と課題

1 社会の変化

(1) 人口減少・高齢化の進展

○相模原市の将来人口推計

2065年にはピーク時の3/4まで人口が減少する見込みです。



【出典：2015年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計】

(2) 子どもの貧困など社会経済的な課題

○相対的貧困率

平成 27 年の相対的貧困率[※]は 15.7%、子どもの貧困率は 13.9%。7 人に一人の子どもが相対的貧困状態にあります。

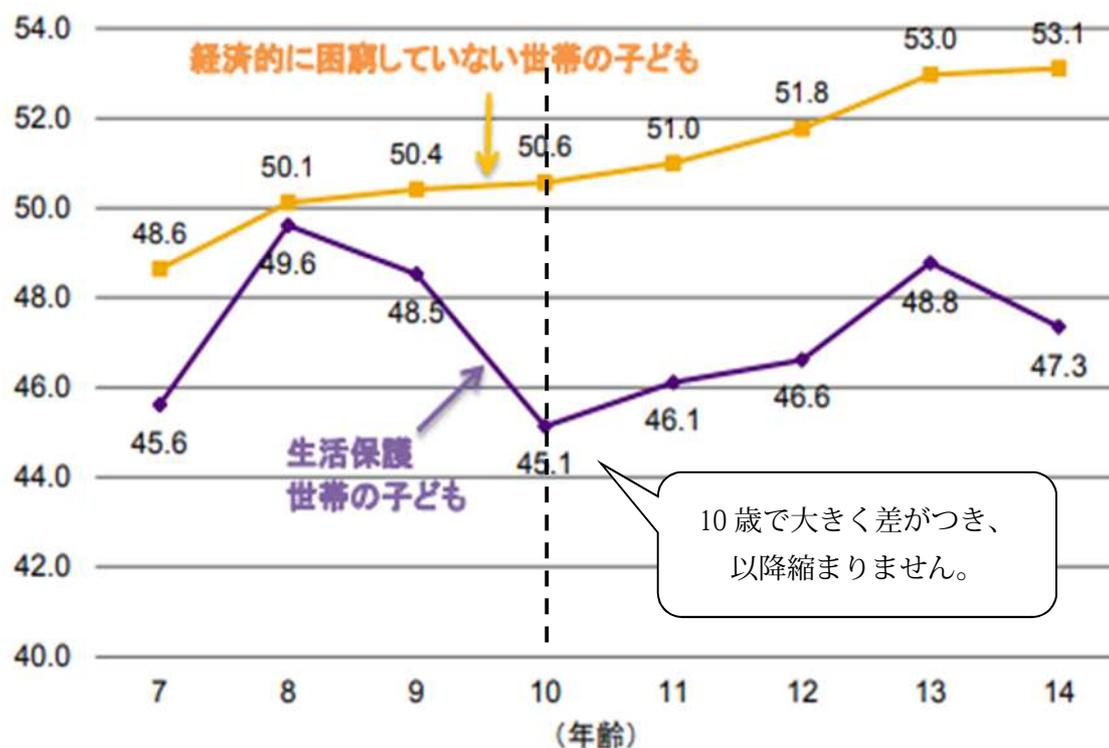
【出典：平成 28 年国民生活基礎調査（厚生労働省）】

※相対的貧困率とは、所得を多い順に並べて、真ん中の人の所得の半分以下の所得で生活をしている人の割合です。

○経済的に困窮していない世帯と生活保護世帯の国語の偏差値の推移

家庭の経済状況と、その世帯の子どもの学力には相関関係があります。

(国語の偏差値の平均値)



【出典：家庭の経済格差と子どもの認知能力・非認知能力格差の関係分析（公益財団法人日本財団）】

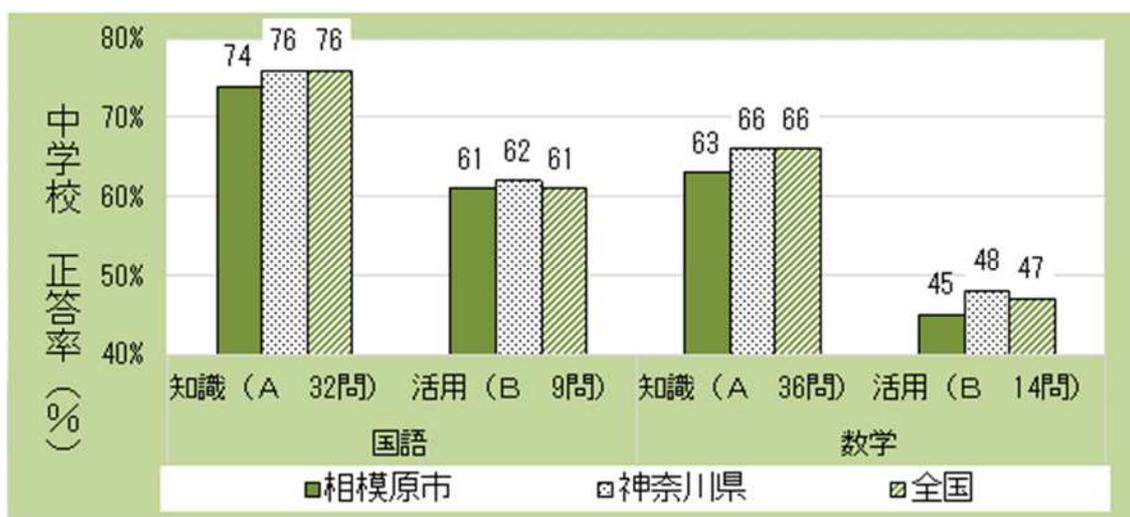
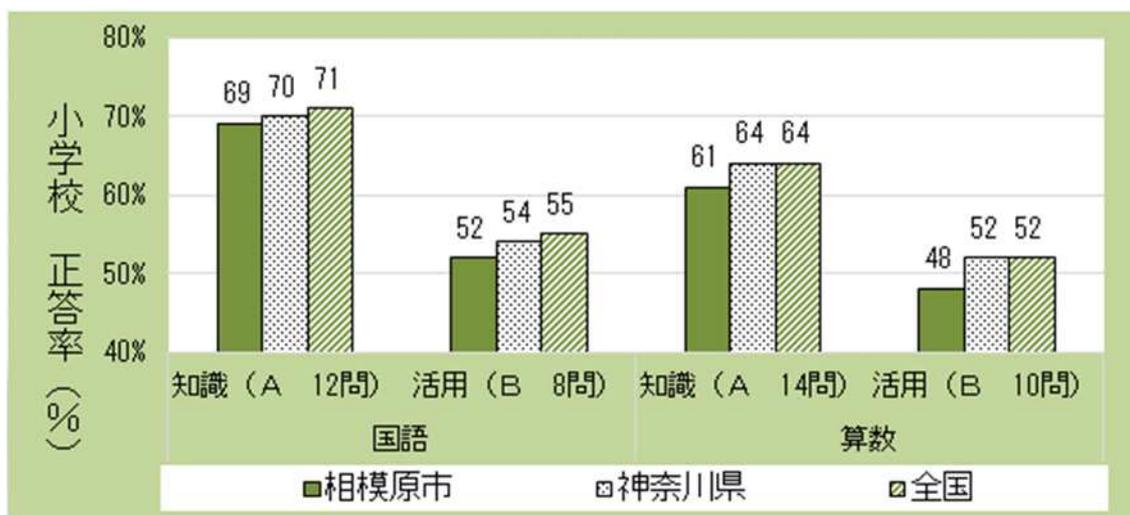
2 教育に関する今日的な課題

(1) 基礎的・基本的な知識及び技能の習得

○全国学力・学習状況調査結果の相模原市の状況

平成30年度における本市の結果は、小中学校ともに県・全国をやや下回っていますが、小学校A問題※について、前年度と比較して全国平均との差が縮まっています。

※出題の種類には、主として「知識」に関する問題（A問題）と、主として「活用」に関する問題（B問題）があります。



全国平均正答率との差		
年 度	国 語 A	算 数 A
平成30年度	△2ポイント	△3ポイント
平成29年度	△4ポイント	△6ポイント

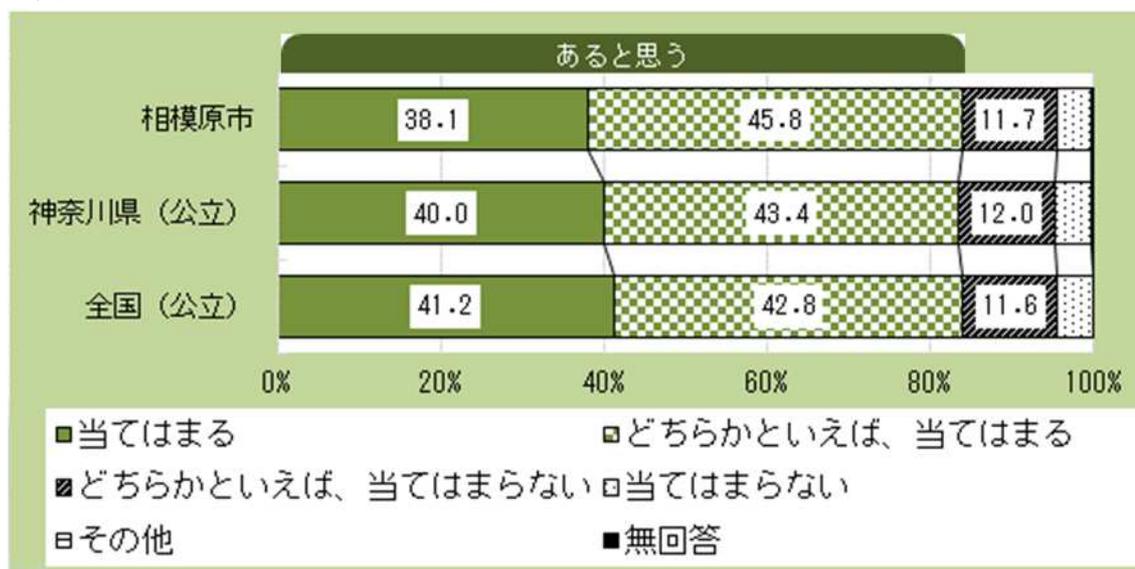
【出典：平成29・30年度全国学力・学習状況調査】

(2) 自己肯定感等の育成

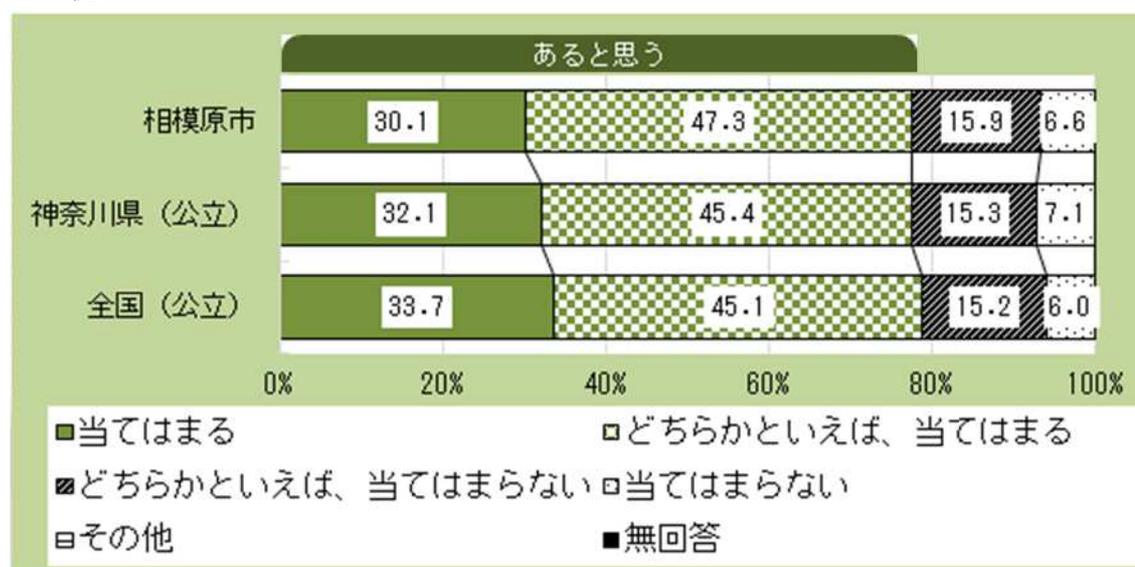
○自分には良いところがあると思う割合

小学校においては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答の合計の傾向は県・全国とほぼ同じ傾向ですが、中学校においては全国と比較してやや低い傾向にあります。特に、「当てはまる」との回答は小中学校ともに県・全国と比較して低い傾向にあります。

<児童>



<生徒>



※各表の数値は四捨五入のため、合計値が100%にならない場合があります。

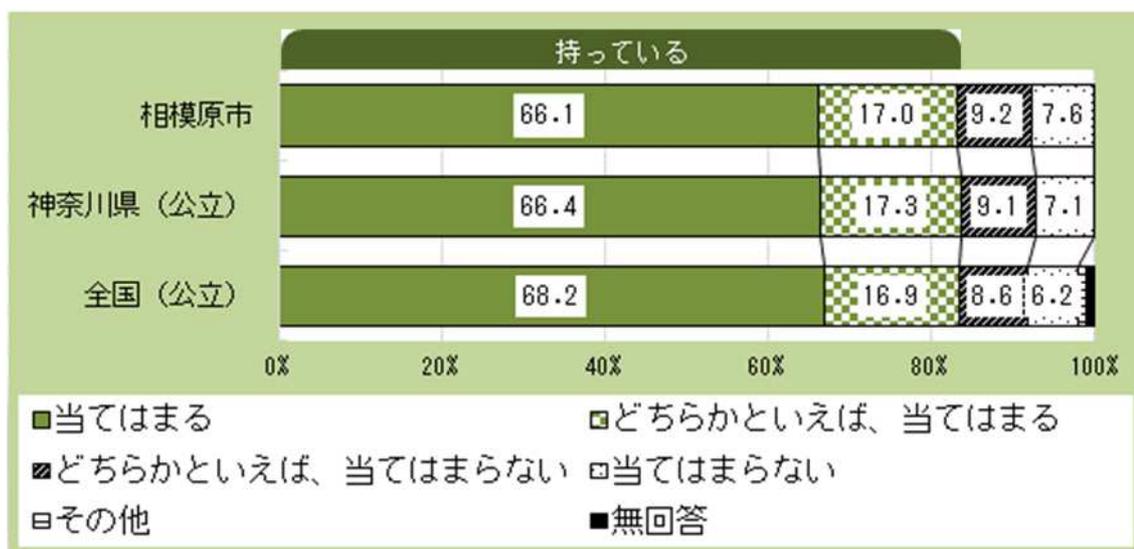
5%未満の数値は非表示です。

【出典：平成30年度全国学力・学習状況調査】

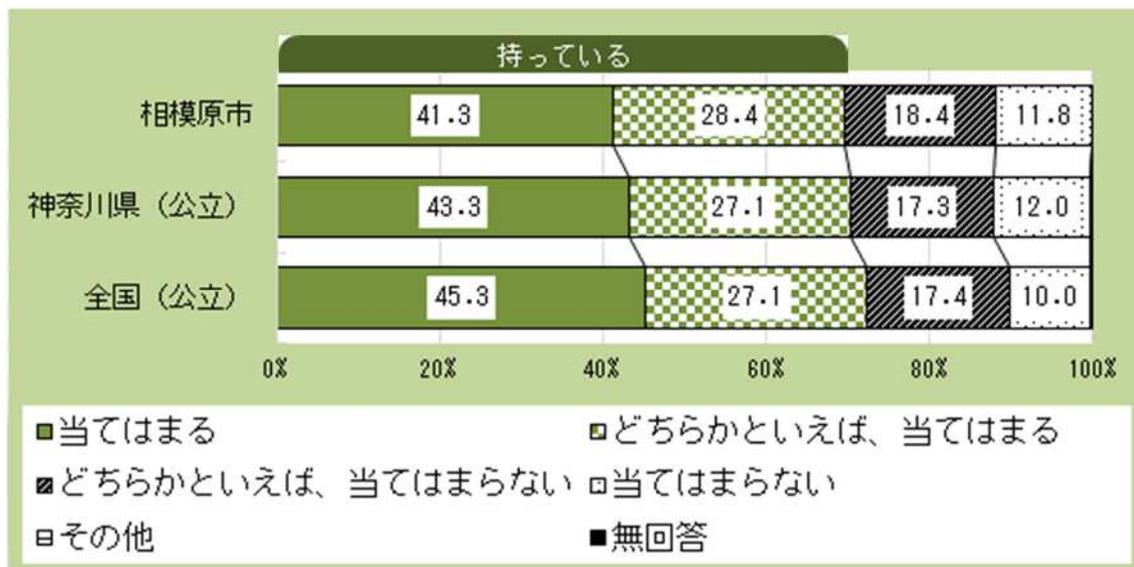
○将来の夢や目標を持っている割合

小学校においては、回答の傾向は県・全国とほぼ同じ傾向ですが、中学校においては県・全国と比較してやや低い傾向にあります。

<児童>



<生徒>



※各表の数値は四捨五入のため、合計値が100%にならない場合があります。

5%未満の数値は非表示です。

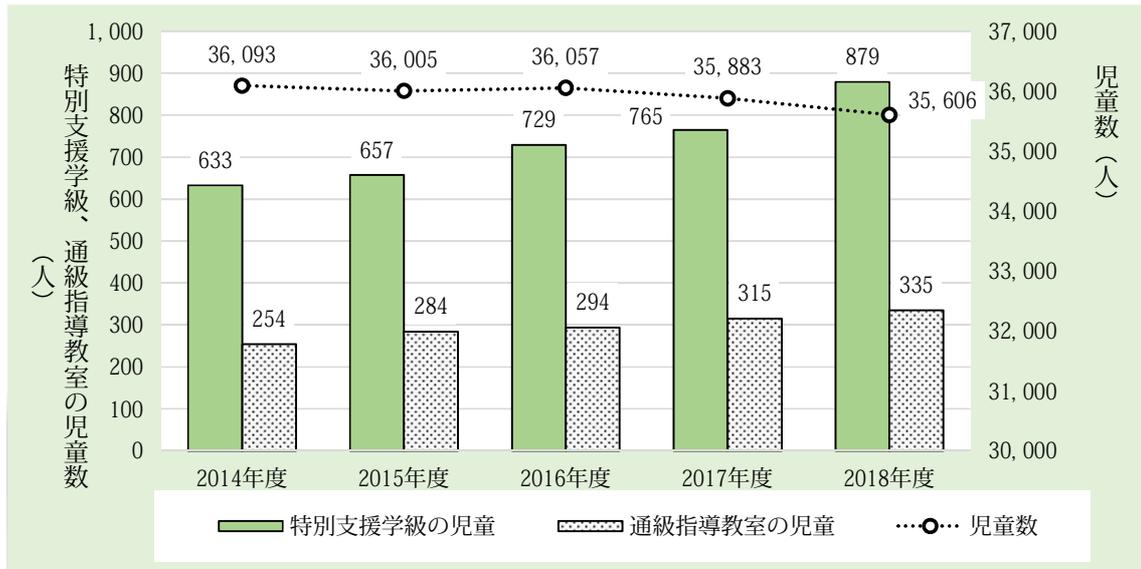
【出典：平成30年度全国学力・学習状況調査】

(3) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実

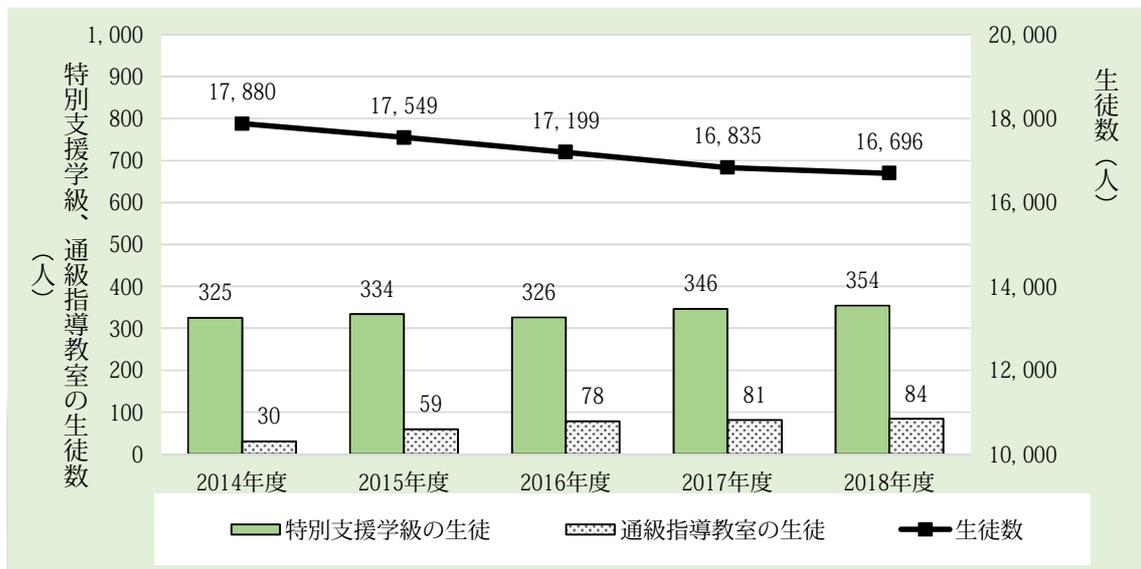
○市立小中学校の特別支援学級、通級指導教室の在籍児童生徒数

児童生徒の総数は減少傾向にある一方、支援が必要な児童生徒数は増加傾向にあります。

<児童>



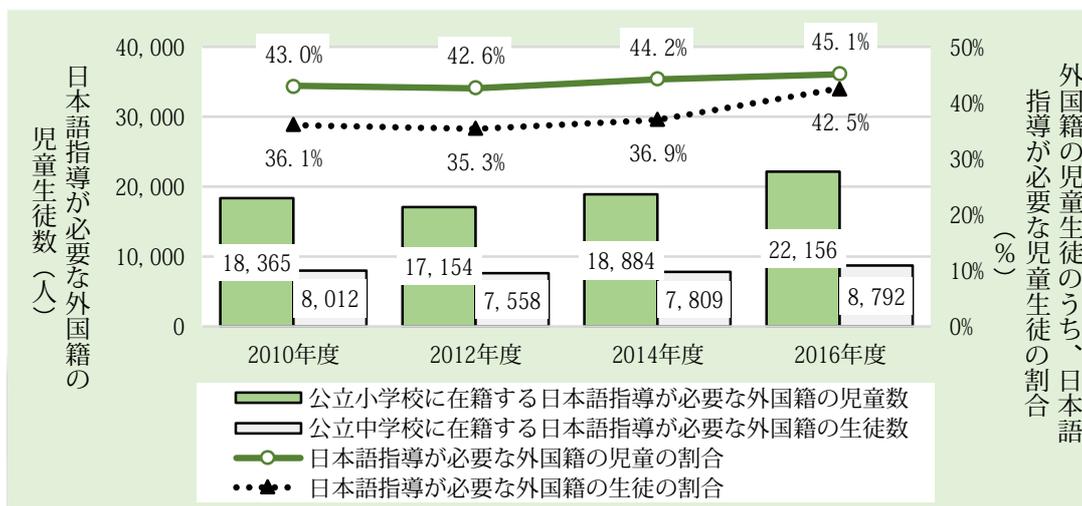
<生徒>



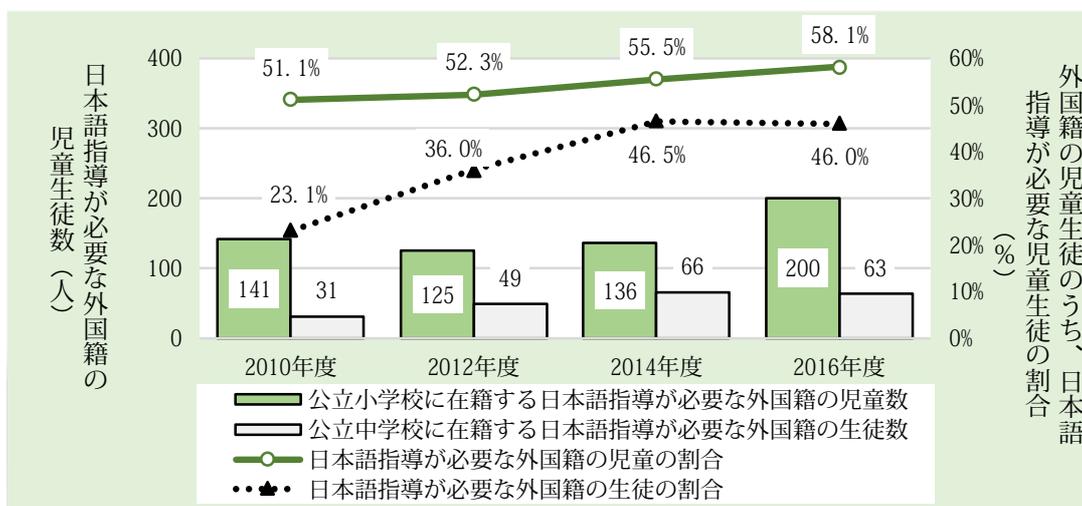
【出典：相模原市教育要覧を基に作成】

○公立の小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国籍の児童生徒の状況
 全国、本市ともに増加傾向にあります。

<全国>



<相模原市>



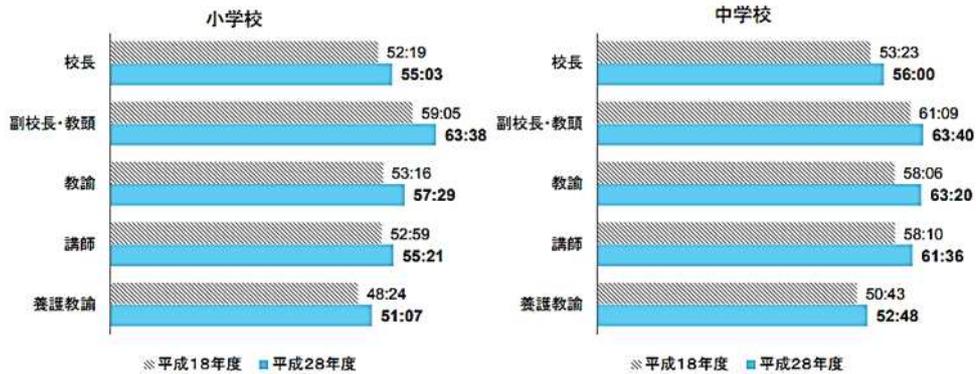
【出典：相模原市学校教育課作成資料を基に作成】

(4) 教員の長時間勤務の解消

○教員の勤務時間

学校に求められる役割が増大し、教師に負担がかかっていることが指摘されています。

職種別 教員の1週間当たりの学内総勤務時間(持ち帰り時間は含まない。)(時間:分)

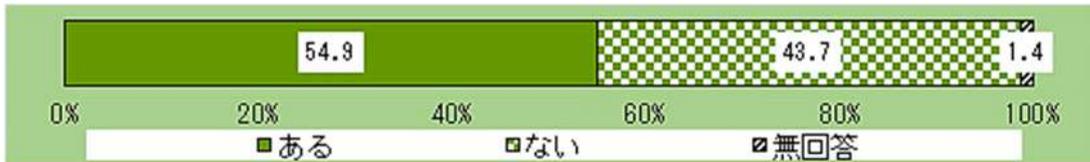


【出典：教員勤務実態調査(平成28年度)(確定値)について(文部科学省)】

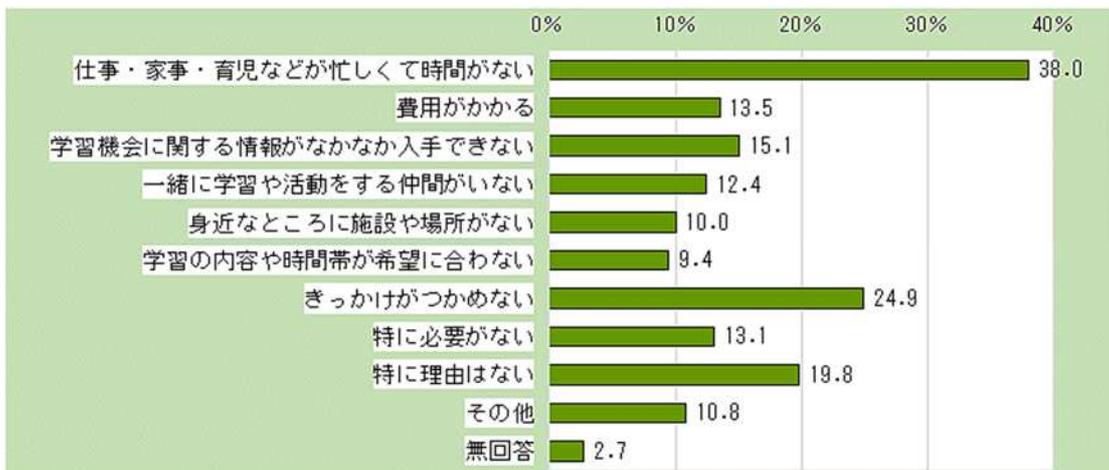
(5) 生涯学習のきっかけづくり

○この1年間で生涯学習をしたことがない人の割合

生涯学習をしたことがない人が43.7%となっています。そのうち一番多い理由が「忙しくて時間がない」の38.0%ですが、「きっかけがつかめない」が次いで24.9%となっています。



【生涯学習をしたことがない人について、理由の回答状況】



【出典：相模原市教育振興計画に関するアンケート調査結果を基に作成】

新たな教育振興計画の基本理念や 施策体系検討の考え方（1）

（第3回相模原市教育振興計画策定委員会までの議論を整理したもの）

1 教育を取り巻く現状と課題

（1）社会の変化

- ①人生100年時代や超スマート社会の到来
- ②家庭環境の変化
- ③子どもの貧困
- ④地域コミュニティの希薄化
- ⑤グローバル化の進展とSDGs

（2）教育に関する今日的な課題

- ①基礎的・基本的な知識及び技能の習得
- ②自己肯定感等の育成
- ③一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実
- ④教員の長時間勤務の解消
- ⑤公共施設の老朽化対策
- ⑥生涯学習のきっかけづくりや
社会教育に携わる多様な担い手の育成 等

2 基本理念

本市における学びが一人ひとりの人生の拠り所となり、この学びを通して誰もが幸福な人生の創り手となることができるよう、次の3つの視点に基づき、目指す人間像を検討中

個性・能力を磨き
夢や目標に向かって
力強く豊かな人生を生きる人

多様性を尊重し
他者を思いやり
共に支え 高め合う人

感性を豊かに働かせ
広く想像し 深く思考し
新たな価値を生み出す人

3 教育施策の展開に向けた基本的な考え方

（1）基本フレーム

- 1 縦の接続 生涯を見通した学びの環境づくり
- 2 横の連携 教育に対する社会全体の連携
- 3 環境の充実 多様な学びを支える環境の充実

（2）基本姿勢

- 一人ひとりの可能性とチャンスの最大化
- 1 温かさや先進性のある教育施策
 - 2 教育資源の効果的な配分

4 基本目標

- 1 生涯にわたる学びの推進
- 2 オール相模原で取り組む
地域教育力の向上
- 3 多様な学びを支える環境の充実

5 基本方針

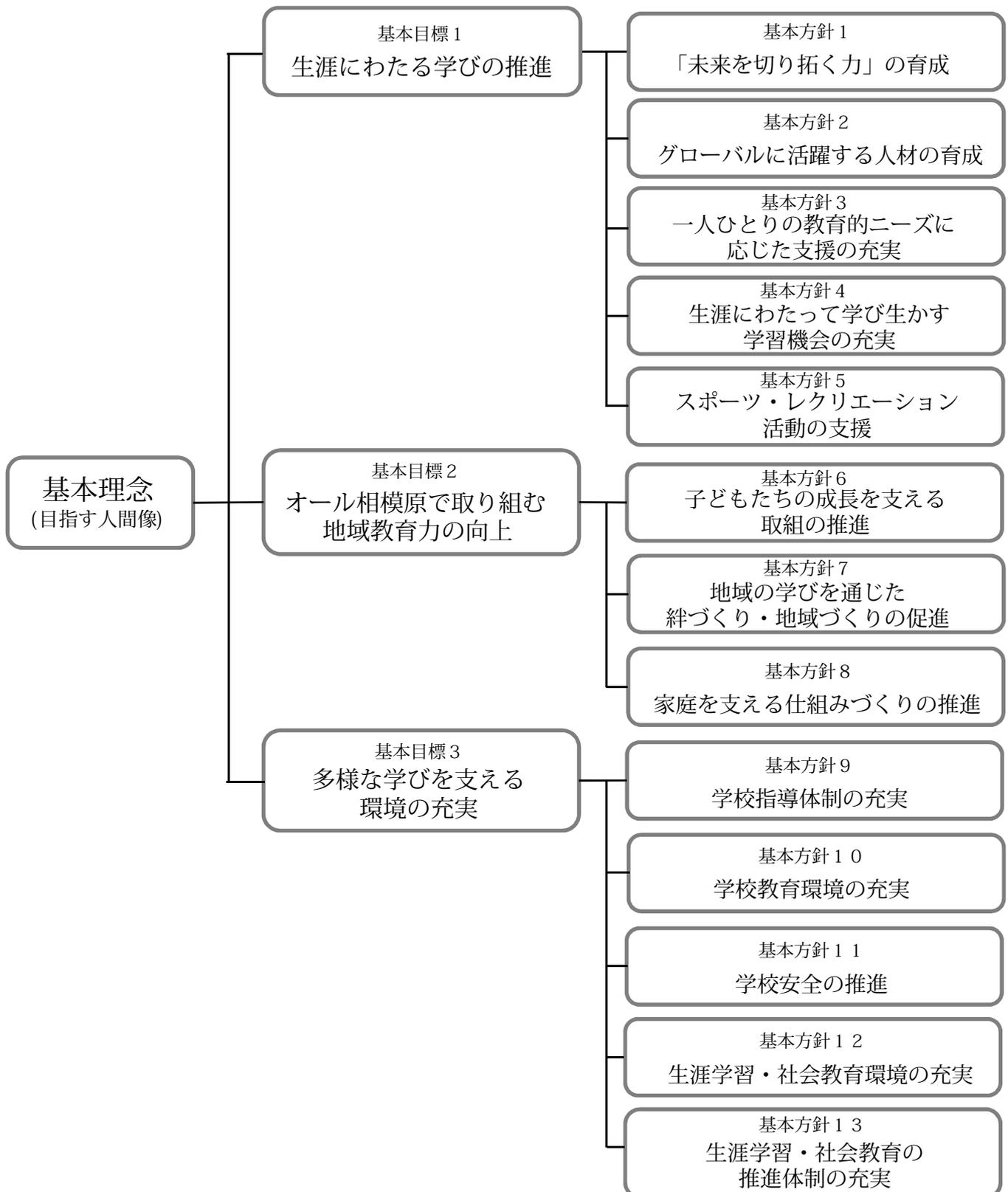
新たな教育振興計画の基本理念や 施策体系検討の考え方（2）

（第3回相模原市教育振興計画策定委員会までの議論を整理したもの）

基本理念

基本目標

基本方針





MEMO